Pioneer

ドライブレコーダー

取扱説明書

VREC-DZ810D Ⅱ
VREC-DZ410D Ⅱ

目次 (→P5)

はじめに (→P6)

取り付け／接続 (→P15)

使いかた (→P27)

設定 (→P41)

付録 (→P45)

車への取り付けは、必ずこの取扱説明書の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や指定以外の部品を使用すると、事故やけがの原因となる場合があります。この場合は、弊社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ

取り付け作業が完了しましたら、この取扱説明書はお客様へお渡しください。

免責事項について

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、弊社は一切の責任を負いません。

carrozzeria

安全上のご注意（安全にお使いいただくために必ずお守りください）

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」です。
⚠ 注意	「人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」です。

■ お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

⚠ 注意（警告を含む）しなければならない内容です。	❗ 必ず行っていただく強制の内容です。
🚫 禁止（やってはいけないこと）の内容です。	

DR-V3.4

接続・取り付け

⚠ 警告

🚫 禁止

エアバッグの動作を妨げる場所には、取り付けや配線をしない

エアバッグが動作しなかったり、動作したエアバッグで製品や部品が飛ばされ死亡事故の原因になります。
車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。

取り付けやアース配線に、保安部品（ステアリング、ブレーキ、タンクなど）のボルトやナットを使用しない

制御不能や発火、交通事故の原因となります。

視界や運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けない

交通事故やケガの原因となります。

本機は、保安基準に適合しない場所に貼り付けたり、再貼り付けや汎用の両面テープで貼り付けたりしない

視界不良や本機がはがれて、事故の原因となります。

🚫 禁止

車両メーカーが指定する禁止エリアや車両の操作を妨げる位置に、取り付けや配線をしない

カメラ装置などの動作を妨げるおそれがあり、交通事故の原因となります。車両メーカー、カーディーラーに注意事項を確認してから作業を行ってください。

❗ 強制

取付・取外し・配線は、専門技術者に依頼する

誤った取り付けや配線、取り外しを行うと、車に支障をきたす場合があります。
また、お客様ご自身による取付・配線はケガの原因となりますので、販売店などにご依頼ください。

説明書に従って接続・取り付ける

説明書に従わずに接続・取り付けを行うと、火災や故障の原因となります。

コード類はしっかりと固定する

コードを固定する付属部品または市販部品を使用してください。ステアリングやセレクトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつくと、運転操作を妨げ事故の原因となります。また、乳幼児の首などに巻きつく危険があります。

パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認し、干渉しないように取り付ける

穴あけドリル等がパイプ類、タンク、電気配線などと干渉すると、火災、故障の原因となります。

強制

付属の部品を使用し、固定する

付属の部品以外を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できずに外れて運転の妨げになり、事故やケガの原因となります。

取り付けと配線が終わったら、車の電装品が正常に動作するか確認する

正常に動作しない状態で使用すると、火災や感電、交通事故の原因となります。

車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコードを挟み込まないように配線する

断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

取り付け場所の汚れ（ごみ、ほこり、油）などを取り除き、しっかりと取り付ける

走行中に外れ、交通事故やケガの原因となります。乗車時に取り付け状態（接着やねじのゆるみなど）を点検してください。

⚠ 注意

禁止

本機を不安定なところに取り付けない

落下などによる事故やケガ、故障の原因となります。

コード類の配線は、車体の高温部・金属部・可動部に接触させない

断線やショートによる火災や感電の原因となります。

ヒーターの吹き出し口の近くに設置しない

製品の通風口、放熱板を塞ぐ場所には設置しない

熱風が直接当たったり、放熱が不十分となり、内部温度が上昇し、火災や事故の原因となります。

禁止

水のかかるところや結露、ほこり、油煙の多いところに取り付けない

発煙や発火、故障の原因となります。

強制

シガーライタープラグを確実に挿入する

挿入が不十分だと火災、感電の原因となります。

シガーライタープラグは定期的に清掃と点検を行う

シガーライターソケットの中に異物が入っていると火災、感電の原因となります。

使用方法

⚠ 警告

禁止

本機はリチウム二次電池を内蔵しています

- 液体で濡らさない
- 分解しない
- 指定以外の方法で充電しない
- 火の中へ投入、加熱をしない

発熱・発火・破裂の原因になります。

本機は電池を使用しています

- 電池の使用中、保管中又は移動中に過度の高温又は低温にさらさない
- 火中若しくは熱した炉での電池の廃棄、又は電池の機械的な押潰し若しくは切断をしない

発熱・発火・破裂の原因になります。

内蔵電池に強い衝撃を加えない

変形、保護機構が破損する可能性があり、発熱、破裂、発火の原因となります。

画面だけを見ながらの運転はしない

必ず目視による安全確認を行いながら運転してください。距離感の違いとカメラの死角により人や物にぶつかるおそれがあり、思わぬ事故の原因となります。

大きな音量で使用しない

警告音など車外の音が聞こえない状態で運転すると、交通事故の原因となります。

電池・ネジなどの小物部品は乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

液体で濡らさない

発煙、発火、感電の原因となります。

分解禁止

分解や改造、修理をしない

交通事故や火災、感電の原因となります。

コードを切断したり、被覆を切って他の機器の電源をとるのは絶対におやめください。

アースコードの改造や、他の機器のアースコードと途中で接続することは絶対におやめください。

禁止

ぶら下がったり、押したり引っ張ったりして、力を加えたりしない

ケガや車両の変形および故障の原因となります。

シガーライタープラグ挿入中はソケットを回したり押し込んだりしない

接触不良により火災や故障の原因となります。

禁止

液漏れした電池には直接触らない

ケガや周囲を汚染する原因となります。
万が一皮膚や衣服に付着した時は、きれいな水で洗い流してください。目に入った時は、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師に相談してください。

画面が映らない、音が出ない、音声が割れる、歪むなどの異常・故障状態で使用しない

思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

強制

本機の内蔵電池を廃棄するときは、次のことを守る

バックアップ用リチウムイオン電池は、通常お客様が交換する必要はありません。
データ等が壊れる恐れがありますので、故障時等の交換は、販売店か修理受付窓口に依頼してください。
不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示に従って処理して下さい。

実際の交通規制に従って走行する

ルート案内が実際の交通規制に反している場合があり、交通事故の原因となります。

必ず規定容量のヒューズと交換する

専用のシガーライタープラグのヒューズが切れているときは、新しい標準管ヒューズに交換して、先端部をしっかり締めます。
必ず、シガーライター電源ケーブル本体のラベルに記載されている規定タイプ、容量のヒューズと交換してください。

専用のシガーライタープラグを使用する

専用のシガーライタープラグ以外を使用すると、火災や感電、故障の原因となります。

使用後または長時間使用しない場合はシガーライタープラグを抜く

車種によってエンジンを切ってもシガーライターソケット電源が切れない場合があり、火災やバッテリー上がりの原因となります。

フロントガラスに貼り付ける機器等は、車を止めてから操作する

無理な姿勢で操作すると運転操作を誤り事故の原因となります。

⚠ 注意

禁止

本機は自動車用途以外で使用しない

発煙や発火、感電やケガの原因となります。

本機の上に重いものを乗せたり、乗ったりしない
落下させる、たたくなど、強い衝撃を与えない

故障や火災の原因となります。

キャッシュカードなどを本機に近づけない

磁気データが消去されることがあります。

シガーライタープラグを濡らしたり汚したりしない

火災、感電の原因となります。濡れたり、汚れたりしたときは、きれいに拭き取ってください。

本機をフロントガラスと車用サンシェード等の間に挟み込まない

熱がこもり、本機の変形や故障の原因となることがあります。
駐車監視機能使用時にサンシェードを使用する場合は、ドライブレコーダー部分を切り取るなど加工を行ってください。

運転者は運転中に画像を注視しない

前方不注意となり交通事故の原因となります。

注意

車両から乗り降りするときなどは、製品に頭部をぶつけないように注意する

ケガの原因となります。

注意

温度の上昇に注意する

夏の炎天下、直射日光を浴びている場合など、表面が高温になるので触る場合は十分注意して触れてください。車のダッシュボード同様に高温になります。

異常時の問い合わせ

⚠ 警告

強制

万一異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ず販売店かサービス相談窓口に相談する

そのまま使用すると、思わぬ事故や火災、感電の原因となります。
どのようなタイミングまたは操作をした場合に、その異常事象が発生したかの詳細情報をできる限り販売店かサービス相談窓口にお伝えください。

目次

本書の見かた 6
使用上のご注意.....7
付属品を確認する.....10
各部の名称 12
microSD™カードの入れかた・取り出しかた 13
取り付けの前に知ってほしいこと.....15
取り付け 17
別売の電源ケーブルの接続 25
ドライブレコーダーの使いかた 27
ドライブレコーダーの設定 41
録画時間および枚数の目安 45
故障かな？と思ったら.....47
仕様.....50
GPSについて 51
リサイクルご協力のお願い 52
商標・著作権など.....52
保証書とアフターサービス 53

本書の見かた

表記と意味

取り扱いで注意していただきたいことや、本機の性能を維持するうえで注意していただきたいことについて、説明しています。

・○○○○○○○○

操作する上でのヒントや、機能に関する補足について説明しています。

【○○】

画面に表示される選択項目を表します。

「○○○○」(→P##)

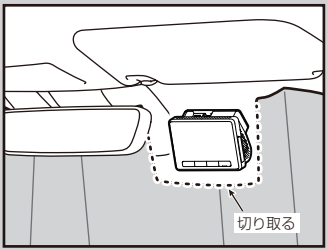
参照していただきたい箇所や設定項目を表します。

- 本書で使っているイラストや画面例は、実際の製品と異なることがあります。
- 実際の製品の画面は、性能・機能改善のため、予告なく変更することがあります。
- 本書では、microSDHC™/microSDXC™ メモリーカードを、便宜上「microSD カード」と表記しています。

使用上のご注意

⚠ 本機取り扱いに関するご注意

- 運転者は走行中に再生操作や設定操作などしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。必ず安全な場所に停車してから操作してください。
- ドライブレコーダーの各機能は、設定・設置状況・microSD カードの状態・走行環境（路面状況など）の影響により、正しく作動しない場合があります。
- ダッシュボード上に明るい色のものを置くと、フロントガラスに反射してカメラ映像に映り込む場合があります。ダッシュボード上には明るい色のものを置かないでください。
- 本機は事故の証拠として、効力を保証するものではありません。
- 本機は全ての状況において映像の記録を保証するものではありません。
- 本機で撮影できる範囲*「仕様」(→ P50)* には限界があります。予め記録される映像で確認の上ご使用ください。
- 本機をフロントガラスと車用サンシェード等の間に挟み込まないようにしてください。熱がこもり、本機の故障の原因になります。
  駐車時にサンシェードを使用する場合は、ドライブレコーダー部分を切り取るなど加工を行ってください。



- 直射日光が当たる環境で駐車した場合、本機は高温になる場合があります。その際、高温保護機能が動作し、一部の機能（モニター表示、ドライブサポート機能、録画機能など）が制限されます。
- 本機で撮影した映像を取り扱う際は、被写体のプライバシーなどを侵害しないよう十分にご配慮ください。また、お客様の責任でお取り扱いください。本機で撮影した映像には、車両ナンバーなどの個人情報が含まれる場合があります。

- 天候や時間帯等の周囲の状況によっては、車両前方の状況を正しく認識できない場合があります。
- LED 式信号機や道路上の街灯などを撮影すると、信号機や街灯が点滅しているように撮影されたり、ちらついたりする場合があります。また、色が識別できない場合があります。これらの場合については弊社は一切の責任を負いません。
- 本機は G センサー（加速度センサー）で衝撃（加速度）を検知して事故発生前後の映像を記録しますが、全ての状況において映像の記録を保証するものではありません。
- 電源供給時には必ず付属のシガーライター電源ケーブルを使用してください。
- 弊社では、破損したファイルや消去したファイルの復元サービスは行っておりません。
- microSD カードの保存領域は、撮影種別によって下図のように四分されます。

連続録画ファイル保存領域
イベント録画ファイル保存領域
駐車監視録画ファイル保存領域
写真ファイル保存領域

- 各ファイル保存領域の空き容量が足りなくなると、上書き保存されますのでご注意ください。残しておきたい大切なファイルがある場合は、バックアップすることをお勧めします*「撮影したファイルのバックアップ」(→P39)*。
- 事故録画など必要な録画記録が上書きされないように必ず電源をオフしてから microSD カードを取り出し保管してください*「microSD™ カードの入れかた・取り出しかた」(→P13)*。
- 動画ファイルはお手持ちのパソコンでも再生できます。ただし、パソコンの性能によっては、映像の再生がコマ落ちしたり止まったりすることがあります。
- カーナビゲーションなど GPS を使用する機器を本機の近くでお使いの場合、電波障害の影響で、一時的に GPS 衛星の電波を受信できなくなることがあります。また、周辺機器の機能にも何らかの影響を及ぼす可能性があります。
- レンズ部を手で触らないでください。触ってしまった場合は、柔らかい布で拭いてください。
- バックアップ用リチウム二次電池は、通常お客様が交換する必要はありません。データ等が壊れる恐れがありますので、故障時等の交換は、販売店か修理受付窓口に依頼してください。

⚠ microSD カードの取り扱いに関するご注意

- 本機は、以下の microSD カードに対応しています。

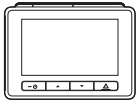
	microSDHC	microSDXC
容量	16 GB ～ 32 GB	64 GB ～ 128 GB
ファイルシステム	FAT32	
スピードクラス	Class10 以上	

全ての microSD カードの動作を保証するものではありません。

- 当社推奨 microSD カード：
  パイオニア製 microSDHC/SDXC メモリーカード（別売品）。
  詳細は以下より製品ページをご覧ください。
  https://jpn.pioneer/ja/carrozzeria/
- 本機は、低電圧信号（LVS）カードは使用できません。
- 本機に使用する microSD カードは、本機でフォーマット操作が必要です。フォーマット時に固定の領域を確保します。そのためパソコンで確認した場合、空き容量が無いように見えますが問題ありません。また、カード内にパソコンなどで他のデータを入れずに使用してください。
- **microSD カードへのアクセス中は、microSD カードを抜かないでください。ファイルやカード自体が破損する恐れがあります。**
- microSD カードは消耗品です。microSD カードは普通に使用していても正常に書き込みや消去などの動作をしなくなる場合があります。
- **microSD カードの寿命は保証対象外となります。**
- microSD カードは消耗品です。定期的に新品への交換を推奨いたします。長期間使用すると、不良セクタの多発などにより正常に記録できなくなる場合や、microSD カードがエラーになり使用できなくなる場合があります。
- microSD カードの消耗に起因する故障または損傷については、弊社は一切の責任を負いません。
- お持ちのパソコンで認識している microSD カードが、まれに本機で認識しない場合があります。この場合、microSD カードの不具合によっては、本機のフォーマット機能でフォーマットすることにより認識する場合があります*「設定できる機能」(→ P43)*。ただし、フォーマットした場合は、microSD カードに記録された保護ファイルも含めた全てのファイルが消失します。フォーマットの際は、必ず microSD カードファイルのバックアップを作成してから行ってください。
- フォーマット作業による microSD カードの不具合修復を弊社が保証するものではありません。また、本作業により microSD カードのファイル消失並びに、その他損害が発生した場合は、弊社として責任を負えません。お客様の判断・責任のもとでフォーマット作業は実行してください。

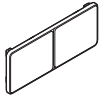
付属品を確認する

① ドライブレコーダー本体× 1



② リアカメラ× 1

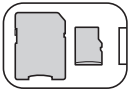
③ 取付ブラケット× 1



④ シガーライター電源ケーブル（4 m）× 1

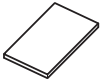
⑤ リアカメラ接続ケーブル（9 m）× 1

⑥ microSD カード（64 GB）× 1

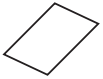


※ VREC-DZ410D Ⅱには microSD カードは付属していません。

⑦ 取扱説明書× 1



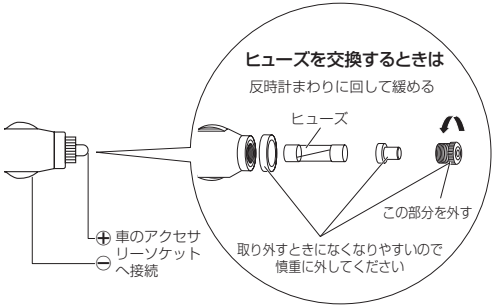
⑧ 保証書× 1



⑨ クリーナークロス× 1

ヒューズを交換するときは

付属のシガーライター電源ケーブルを接続しても、電源が入らないときや充電できない場合は、ヒューズ切れを確認してください。

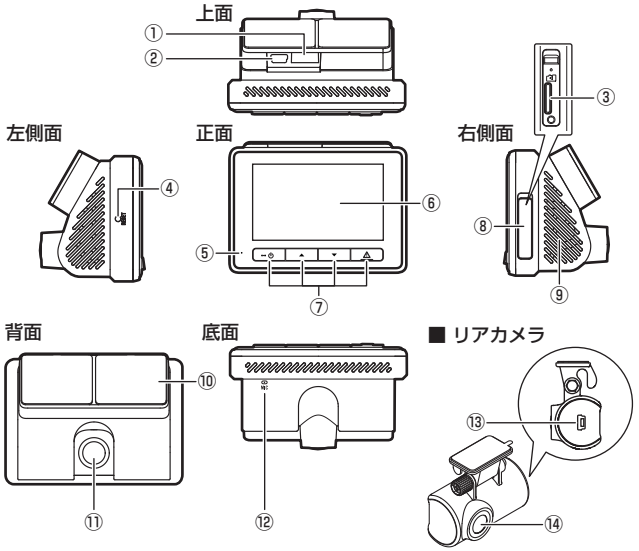


⚠ 注意

- **ヒューズが切れているときは、新しいヒューズに交換して、先端部をしっかりと締めます。必ず、シガーライター電源ケーブル本体のラベルに記載されている規定タイプ、容量のヒューズと交換してください。**

各部の名称

■ ドライブレコーダー本体



① **電源ポート**
付属のシガーライター電源ケーブルまたは別売の電源ケーブル（駐車監視用）を接続します。

② **リアカメラ接続端子**
リアカメラ接続ケーブルを使ってリアカメラの接続端子（⑬）と接続します。

③ **microSD カードスロット**

④ **リセットボタン**
ボールペンの先などで押すと、本機をリセットできます。

⑤ **システムインジケーター**

⑥ **液晶モニター**

⑦ **ファンクションボタン**

⑧ **SD™ カードスロットカバー**

⑨ **スピーカー**

⑩ **取付ブラケット**

⑪ **レンズ**

⑫ **マイク**

⑬ **接続端子**

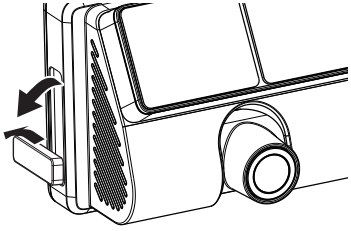
⑭ **レンズ**

microSD™ カードの入れかた・取り出しかた

microSD カードを出し入れする際は、必ず本機の電源をオフにしてください*「手動で電源をオン／オフする」(→ P27)*。

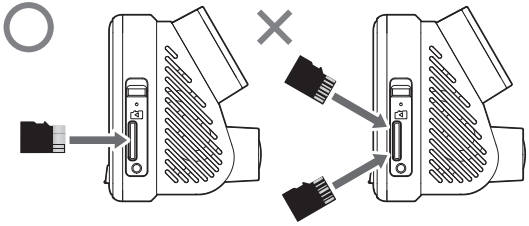
microSD カードを挿入する

1 SD カードスロットカバーを開ける



2 microSD カードスロットに microSD カードを挿入する

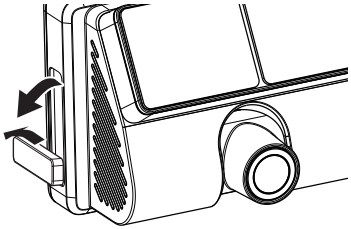
microSD カードの端を持ち、ラベル面を本機の正面側に向けてゆっくりと”カチッ”と音がするまで microSD カードスロットに挿入します。



3 SD カードスロットカバーを閉じる

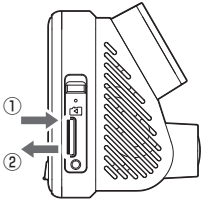
microSD カードを取り出す

1 SD カードスロットカバーを開ける



2 microSD カードを取り出す

microSD カードの上端をゆっくりと”カチッ”と音がするまで内側へ押し（①）、ロックを解除してから取り出します（②）。



3 SD カードスロットカバーを閉じる

取り付けの前に知ってほしいこと

⚠ 警告

- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、エアバッグのカバー部分および作動時の妨げになるような場所には絶対に取り付けないでください。エアバッグが正常に動作しなかったり、動作したエアバッグで本機が飛ばされ、事故やけがの原因となります。

⚠ 注意

- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグが誤動作する原因となることがあります。
- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障する恐れがあります。
- 必ず車両の備品および運転に支障のでない場所に本機を取り付けてください。

⚠ 取り付け上のご注意

- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。
  * 保安基準とは、道路運送車両の保安基準第 29 条及び細目を定める告示第 195 条をいいます。
- ドライブレコーダー本体およびリアカメラは、ガラス取り付け専用です。ガラス以外や車室外には取り付けないでください。
- ドライブレコーダー本体をフロントガラスに取り付けるときは、必ずフロントガラスの指定の位置・寸法内に取り付けてください。
- リアカメラをリアガラスに取り付けるときは、以下の点にご注意ください。
  −熱線がある場合は、熱線を避けて取り付ける。
  −リアワイパーがある場合は、ワイパーの拭き取り範囲に入るように取り付ける。（雨天時の水滴、ガラスの汚れにより映像が見づらくなるため）
  −ハイマウントストップランプからできるだけ離して取り付ける。
- 車種によって、指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、販売店にご相談ください。
- ドライブレコーダー本体およびリアカメラを塞いだり、レンズを汚したりしないでください。
- レンズの近くに反射物を置かないでください。
- ドライブレコーダー本体およびリアカメラは、落としたり、レンズ部分には触れないよう、取り扱いには十分ご注意ください。

- 自動車のガラスにコーティング剤または特殊加工が施されている場合は、録画品質に影響が出る可能性があります。
- 自動車のガラスに特殊加工が施されている場合は、GPS が受信できない可能性があります。本機の画面に表示される GPS 受信状態表示をご確認の上、GPS が受信できない場合は取り付ける事ができません*「ステータス表示について」(→ P29)*。
- 作業場所は、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもっている場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをオンにしてウィンドウを暖めておいてください。
- 両面テープは、一度貼り付けた後に剥がすと粘着力が弱くなるため貼り直しできません。必ずドライブレコーダー本体およびリアカメラを仮留めし、ケーブルの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認してから、取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

両面テープを貼り付ける前に

両面テープを貼り付けるところは、汚れをよく拭きとってください。

取り付け

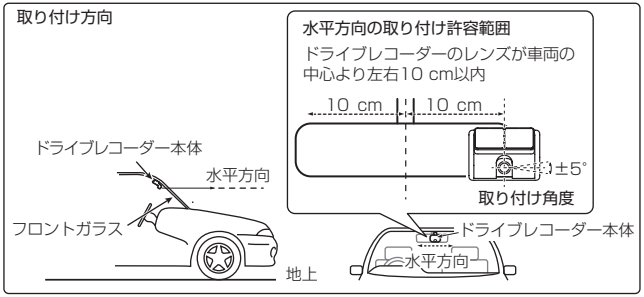
フロントガラス取り付け指定位置

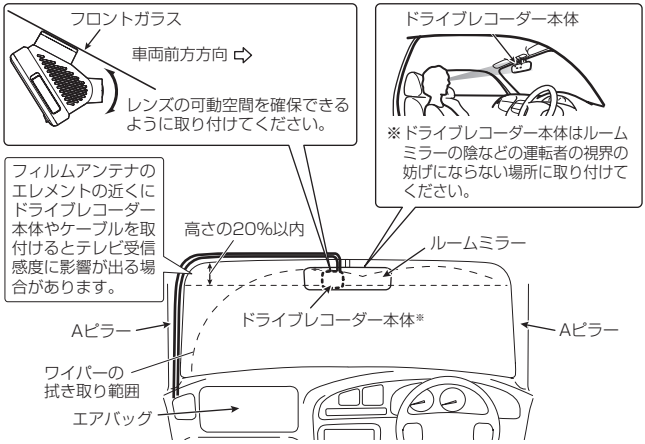
ドライブレコーダー本体をフロントガラスに取り付ける場合、以下の条件を全て満たす車両および位置に取り付けてください。

- ドライブレコーダーの貼り付け面がフロントガラスの高さの上縁から20% 以内の位置（ウエザ・ストリップ、モール等と重なる部分およびマスキングが施されている部分を除く実長の 20% 以内の範囲）あるいは、運転席から見てルームミラーの陰になる位置
- ドライブレコーダー本体のレンズ部分がワイパーの拭き取り範囲内に入る位置
- ドライブレコーダー本体のレンズ部分がサンシェードやクロセラライン・クロセラパターンにかからない位置
- 車検ステッカーと重ならない位置
- ドライブレコーダー本体が前方および左右に対して水平方向を向く位置
- シガーライター電源ケーブルやリアカメラ接続ケーブルが無理なく引き回せる位置

ドライブサポート機能を利用するには以下の条件を満たした取り付けを行ってください。

- 車両の中心から左右に 10 cm 以内
- 本体の左右の傾き (ロール角) が± 5° 以内
- 画面に映る地面（道路）の割合が半分以上





※運転支援システム装着車では、アクセサリー用品の装着禁止エリアを設定している場合があります。詳しくは車両側の取扱説明書をご確認ください。

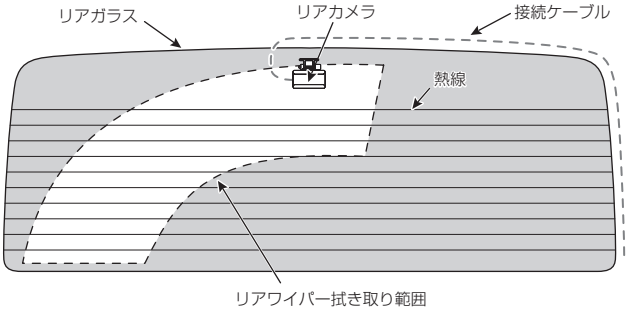
⚠ 必ずお守りください

- **フロントガラスに取り付ける場合は、運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず「フロントガラス取り付け指定位置」に取り付けてください。指定位置以外に取り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。**

リアガラス取り付け推奨位置

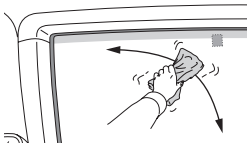
リアカメラをリアガラスに取り付ける場合、以下の条件を全て満たす車両および位置への取り付けを推奨します。

- リアカメラのレンズ部分がワイパーの拭き取り範囲内に入る位置
- リアカメラが後方および左右に対して水平方向を向く位置
- リアカメラのレンズ部分および両面テープが熱線と重ならない位置
- リアカメラの接続ケーブルが無理なく引き回せる位置

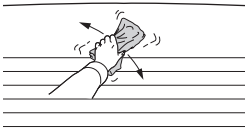


1 クリーナークロスで取り付け部分の汚れ・油などを取り除きます

フロントガラス



リアガラス

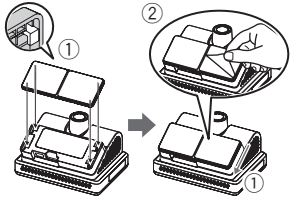


2 ドライブレコーダー本体を取り付けます

①：取付ブラケットをドライブレコーダー本体にセットします。
②：取付ブラケットの両面テープはくり紙をはがします。
③：フロントガラスの指定位置に水平になるように取り付けます。

⚠ 液晶モニターを強く押さないでください

- ガラスに張り付ける際に液晶モニター部分を避けて本体を持って押し付けてください。

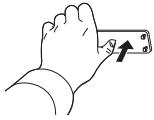


ブラケットが外れない程度に貼り着くように押し付けてください。

④：ドライブレコーダー本体を上方向にスライドさせて、一度、取付ブラケットから外します。

フロントガラスに軽く貼り付いている状態

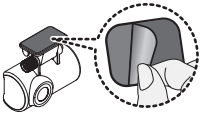
⑤：取付ブラケットを強く押して、しっかりとガラスに貼り付けます。



⑥：取付ブラケット側のツメをドライブレコーダー本体の穴に合わせて入れます。ツメが入ったら下方向にスライドさせて、取付ブラケットに固定します。

3 リアカメラを取り付けます

①：リアカメラの両面テープはくり紙をはがします。
②：リアカメラの映像が水平に表示されるようにリアガラスの指定位置に取り付けます。

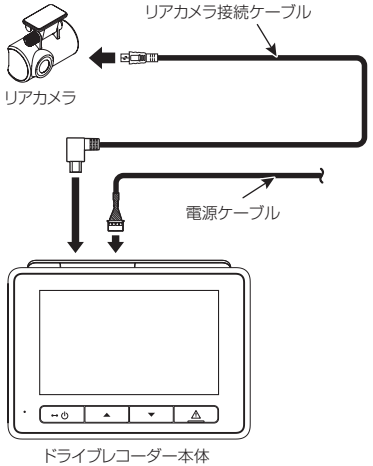


カメラの映像が水平に表示されるようにレンズを車外に向けて、しっかりと押し付けてください。

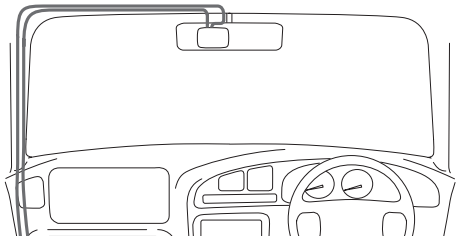
⚠ はがれないようにしっかり取り付ける

- 正しく取り付けられていないと、走行中にはがれて事故の原因になります。ときどき点検してください。

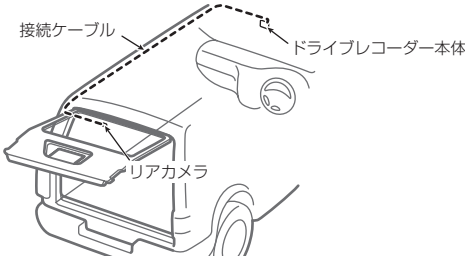
4 ドライブレコーダー本体とシガーライター電源ケーブル、リアカメラ接続ケーブルを接続します



5 シガーライター電源ケーブル、リアカメラ接続ケーブルを助手席側に引き回します

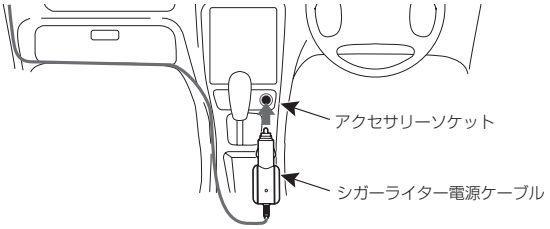


リアカメラの配線例



6 シガーライター電源ケーブルを車のアクセサリーソケットに接続します

車のアクセサリーソケットに奥までしっかり押し込んで、確実に接続してください。正しく通電している場合は、シガーライター電源ケーブルのインジケーターが光ります。（アクセサリーソケットの位置は車によって異なります。）



⚠ 注意

- **シガーライター使用直後はアクセサリーソケットが高温になっています。そのままシガーライター電源ケーブルを挿入すると先端が溶断・ショートする可能性があります。しばらく時間をおいて熱が冷めてからシガーライター電源ケーブルを挿入してください。**

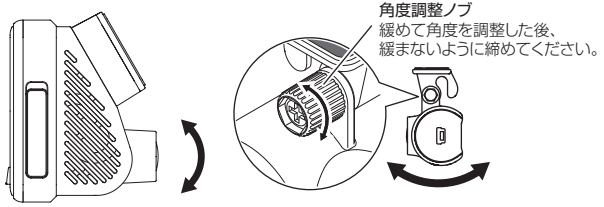
7 車のエンジンをかけて撮影画面を表示します

8 車外の映像が適切に表示されるようにドライブレコーダー本体およびリアカメラのレンズの角度を調整します

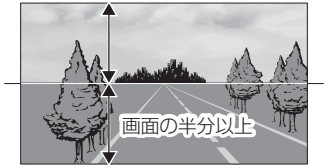
ドライブレコーダー本体のカメラ映像とリアカメラの映像を切り換えるには、録画中画面でファンクションボタンの ▲ を押します*「ファンクションボタンについて」(→ P28)*。

・お買い上げ時は、保護フィルムが貼られています。取り付けが終わったら、はがして使用してください。

ドライブレコーダー本体　　**リアカメラ**



取り付けの際、ドライブレコーダー本体およびリアカメラのレンズを車外に向けてください。
ドライブレコーダー本体のカメラ部分を手で動かしてレンズを調整します。
リアカメラは角度調整ノブを一度緩めてから、カメラの角度を調整して、また角度調整ノブを締めてください。
どちらも、画面に映る地面（道路）の割合が半分以上となるようにカメラレンズの角度を調整します。



⚠ リアカメラを調整するときは角度調整ノブを緩めて行う

・ねじを締めた状態で角度調整を行うとブラケットと本体の勘合部分が破損する可能性があります。

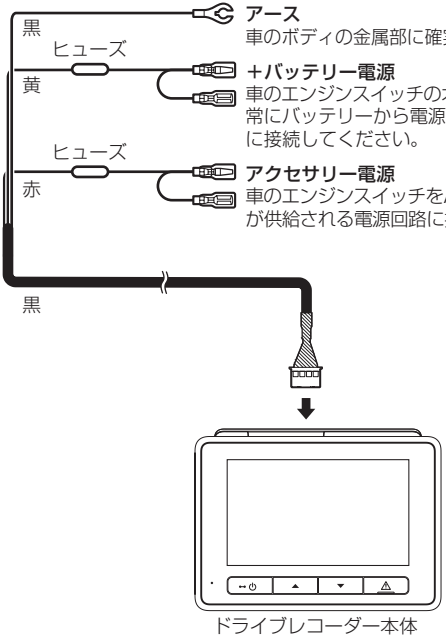
別売の電源ケーブルの接続

⚠ ご注意

- **別売の電源ケーブル（駐車監視用）の接続は、必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください。**

別売の電源ケーブル（駐車監視用）を使用して車両から直接電源を取り出すことで、駐車監視機能をお使いいただけます。
定期的に車のエンジンをかけてバッテリー電圧が下がらないように心がけてください。

取り付けイメージ



⚠ 接続上のご注意

- 製品の発煙・故障を防ぐために、別売電源ケーブルの黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。

  黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。
- 製品の故障・誤動作を防ぐために、別売電源ケーブルの黄リード線（+バッテリー電源）を必ず赤リード線（アクセサリー電源）と別の常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。
- 赤リード線（アクセサリー電源）はバッテリーから常に電源供給される回路には接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗しバッテリー上がりの原因になります。エンジンスイッチに ACC がない車はバッテリーから常に電源供給される回路しかない場合があるため、最寄りの販売店にご相談ください。
- 赤、黄リード線は車のヒューズユニットを通したあとの端子に接続してください。

ドライブレコーダーの使いかた

⚠ ご注意

- 必ず安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけてから操作してください。

本機の電源について

本機は、車のエンジンをオン（ACC ON）にすると起動し、自動的に録画を開始します。（連続録画機能）
本機は録画を開始すると、フロントカメラの映像とリアカメラの映像の両方が録画されます。静止画を撮影した場合も、フロントカメラとリアカメラの両方の静止画が撮影されます。

手動で電源をオン／オフする

本機の電源を手動でオン／オフすることができます。
撮影画面でファンクションボタンの ⏻ を 2 秒以上押すと電源オフ確認画面が表示されます。ファンクションボタンの ▲ ／ ▼ を押して［はい］を選び、⚠を押すと電源がオフになります。もう一度ファンクションボタンの ⏻ を 2 秒以上押すと電源がオンになります。

システムインジケーター表示について

本機の動作状態をシステムインジケーターで表します。

システムインジケーター		動作状態
緑 点灯	赤 点滅	
—	—	メニュー表示中／再生中
○	—	連続録画中
—	○	イベント録画中
—	—	駐車監視中
—	○	駐車監視モードで録画中
—	○	警告発生中
—	○	録画停止中（保護機能 動作時）

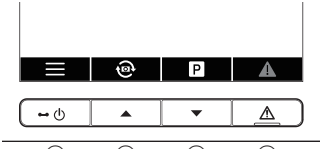
—：消灯

ファンクションボタンについて

ファンクションボタンの機能は画面下部に表示されるアイコンで表示されます。各ボタンの機能は表示されている画面により異なります。（アイコンが表示されない画面もあります。）

再生画面や MENU 画面では、ファンクションボタンの ⏻ を押すと一つ前の画面に戻ります。

録画中



① **メインメニュー表示**
長く押すと、電源のオン／オフ

② **画面の切り換え**
「画面の表示切り替えについて」(→P36)

③ **駐車監視機能のオン／オフ**
「駐車監視機能について」(→P31)

④ **手動イベント録画または静止画撮影**
「手動で撮影」(→P30)、*「写真撮影機能について」(→P36)*

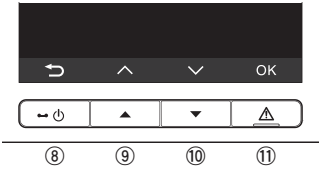
再生中

⑤ **戻る**

⑥ **録画データの削除**

⑦ **一時停止**

MENU画面表示中



⑧ **戻る**

⑨ **上へ ***

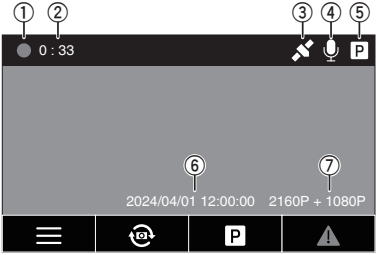
⑩ **下へ ***

⑪ **決定**

＊ 音量や感度の MENU 画面を表示している場合は、音量や感度を高くするまたは低くします。

ステータス表示について

本機の動作状態を表示します。



① **録画中表示（赤丸点滅）**
② **撮影経過時間表示**
③ **GPS 受信状態表示**※1
④ **音声記録表示**※2
⑤ **駐車監視表示**
⑥ **現在時刻表示**
⑦ **カメラの撮影画質**

※ 1 受信中は白色で表示されます。受信できないときは赤い「×」が表示されます。
※ 2 オフに設定されていると赤い「×」が表示されます。

連続録画機能について

本機が起動すると自動的に録画を開始します。録画した映像は設定時間単位（工場出荷時は 3 分間）で 1 ファイルとして microSD カードに保存され、microSD カードの容量が無くなると、古いファイルから上書きされます。

- 録画ファイル時間は変更することができます*「設定できる機能」(→ P43)*。
- 下記の場合に連続録画を停止します。
  —MENU 画面を表示している場合
  —電源供給が停止された場合
  —駐車監視機能が起動した場合
- 録画時間は状況によって変更になる場合があります。

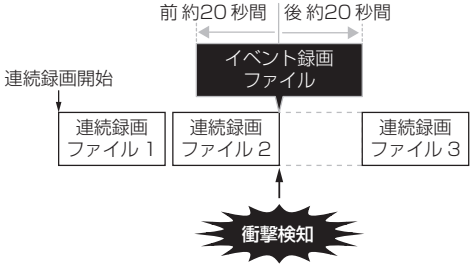
イベント録画機能について

衝撃を検知して自動で撮影

他の車との接触事故が発生した場合など、本機が衝撃を検知した時点から前約20秒間、後約20秒間が自動的にイベント録画ファイルとして保存されます。

イベント録画のタイミングと保存先

※ 連続録画ファイルは「Normal」フォルダーに保存されます。
※ イベント録画ファイルは「Event」フォルダーに保存されます。



手動で撮影

ファンクションボタンの ⚠ に手動イベント録画が割り当てられている場合、連続録画中にファンクションボタンの ⚠ を押すと、押した時点から前約20秒間、後約20秒間がイベント録画ファイルとして保存されます。

- ファンクションボタンの ⚠ を押すと動作する機能は手動イベント録画と静止画撮影のいずれかを割り当てることができます*「手動イベント録画 / 静止画撮影」(→ P43)*。
- 衝撃を検知する感度を調節できます*「衝撃検知感度」(→ P43)*。
- イベント録画中に衝撃を検知した場合はイベント録画終了後に再度イベント録画を開始します。

駐車監視機能について

本機能を使う場合は別売の電源ケーブル（駐車監視用）が必要です。

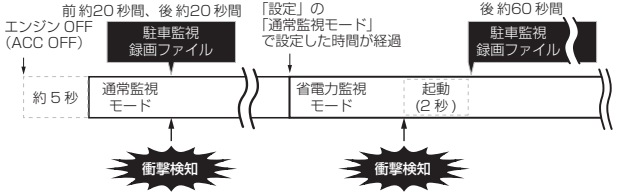
本機には、下記 2 つの駐車監視モードがあります。

- 通常監視モード (OFF/1 時間 /3 時間 /6 時間 /12 時間から設定)
- 省電力監視モード (ON/OFF から設定)

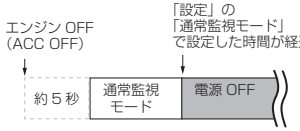
それぞれの設定を行うことで、お好みの駐車監視動作を構成できます。駐車監視機能全体をオン／オフすることもできます。

駐車監視機能のオン／オフボタン（▼）を押してからエンジンをオフした場合、一時的に駐車監視オン／オフを切り替えます。エンジンをオンするとメニューで設定した状態に戻ります。

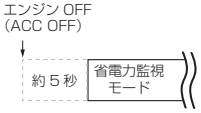
「通常監視モード」が「1 時間～ 12 時間」
「省電力監視モード」が「ON」



「通常監視モード」が「1 時間～ 12 時間」
「省電力監視モード」が「OFF」



「通常監視モード」が「OFF」
「省電力監視モード」が「ON」



通常監視モードについて

本機への電源供給が止まる（車のエンジンをオフ）と、数秒後に駐車監視機能が動作します。

通常監視モード動作中に振動による車の動きを本機が検知すると、検知した時点から前 約20 秒間、後 約20 秒間が駐車監視ファイルとして保存され、次回起動時にお知らせメッセージが表示されます。

- 通常監視モードの動作時間（オフ含め）を設定できます*「通常監視モード時間」(→ P43)*。
- 振動を検知する感度を調節できます*「衝撃検知感度」(→ P43)*。
- 本機への電源供給が止まってから約 3 分間および電源供給を開始する前の約 3 分間に検知された振動については、お知らせメッセージ表示の対象外となります。
- 録画時間は状況によって変更になる場合があります。

省電力監視モードについて

省電力監視モードがオンの場合は、設定した駐車監視時間が経過すると自動で省電力監視モードが作動します。
省電力監視モード作動中に振動による車の動きを本機が検知すると、検知して起動後から 1 分間が駐車監視ファイルとして保存され、次回起動時にお知らせメッセージが表示されます。

- 省電力監視モードは、オン／オフの設定ができます*「省電力監視モード」(→ P43)*。
- 省電力監視モード時は、低消費電力モードで動作するためバッテリー上がりの心配を軽減することができます。
- 省電力監視モードは、衝撃検知後 2 秒以内に録画を開始します。
- 本機への電源供給が止まってから約 3 分間および電源供給を開始する前の約 3 分間に検知された振動については、お知らせメッセージ表示の対象外となります。
- 省電力監視モードは衝撃を検知してドライブレコーダー本体を起動し動作する機能のため、機械式の立体駐車場や振動の多い場所で使用するとバッテリーの減りが早まる可能性があります。そのような場所に駐車する際には設定をオフにしてください。
- 録画時間は状況によって変更になる場合があります。
- 省電力監視モード中にバッテリー電圧が設定した監視電圧付近になると、バッテリー保護のため録画時間が 1 分間より短くなる場合があります。

監視電圧機能について

駐車監視機能をお使いになる場合は、事前に「駐車監視電圧」の設定をしてください*「駐車監視電圧」(→ P43)*。車両のバッテリー電圧が設定した電圧以下になったときに自動的にバッテリー上がりを防止する機能です。

「通常監視モード時間」の設定がオフ以外および「省電力監視モード」の設定がオンの場合
「駐車監視電圧」で設定した電圧値 +0.1V を下回ると、通常監視モードを停止し省電力監視モードが作動します。
省電力監視モード中に「駐車監視電圧」で設定した電圧値を下回ると本機の動作を停止（電源をオフ）します。
「通常監視モード時間」の設定がオフ以外および「省電力監視モード」の設定がオフの場合
設定した電圧値を下回ると本機の動作を停止（電源をオフ）します。

- 市販のテスターなどでエンジン停止状態の車のバッテリー電圧を測定し、その値と同等または少し低い値を設定値から選んでください。
- すでにバッテリーが弱っていて電圧値が低下している場合があります。また、エンジン停止直後などは高めの電圧値が測定される場合があります。測定した電圧が正常値とは限りませんのでご注意ください。
- テスターを準備できない場合などは、カーディーラーや専門業者にご相談ください。
- 使用環境や車両の状況により検知電圧に誤差が生じる場合があります。

ドライブサポート機能

本機で撮影した映像を解析し、画像や音声メッセージなどで注意喚起します。本機能はカメラからの画像情報を用いて判断をするため、本機の取り付けおよび設定の状況や走行環境（天候、時間帯や道路状況など）の影響により、正しく動作しない場合があります。
必ずお客様の目で周囲の状況を把握し、安全を確認しながら運転してください。
ドライブサポート機能を正しく機能させるため、ご利用になる前に以下をご確認ください。

- 本機の取り付けおよび設定を適切に行ってください。詳しくは*「取り付け」(→P17)*をご覧ください。
- 取り付け指定位置に取り付けてください。(たとえばワイパーの拭取り範囲外などでは降雨時に機能が正しく動作しない原因となる可能性があります)
- ダッシュボード上には明るい色のものを置かないでください。ダッシュボード上に明るい色のものを置くと、フロントガラスに反射してカメラ映像に写り込み、誤認識の原因となる場合があります。

レーンキープサポート機能について（LDWS）

運転中に走行レーンを認識することでお車の片寄り走行を検知し、注意喚起します。

- レーンキープサポート機能は、約 30 km/h 以上で運転中に、お車が数秒間左右のどちらかに片寄って走行していると端末が判断したときに注意喚起を行います。
- 本機能は、走行レーンの両側に白線もしくは黄線がある場合に、動作可能です。

前方車両接近警告機能について（FCWS）

運転中に前方車両を認識することでお車との距離が接近したことを検知し、注意喚起します。注意喚起がされないように適切な車間距離を保って運転していただくことで、安全運転にお役立ていただくことができます。注意喚起後のブレーキ操作により衝突を回避・軽減することを主な目的とした機能ではありません。また、前方衝突事故の防止を保証するものではございません。また、すべての危険を警告するものではございません。

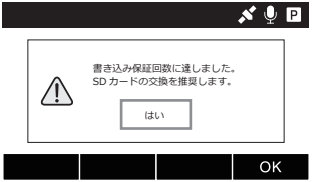
- 本機能は端末が検知する走行速度が 30 km/h 未満では動作しません。
- 前方を走る二輪車の認識・接近警告は本機能の対象外です。
- 本機能は GPS から取得される速度を用いているため、すでに減速するなど衝突のおそれが減少した場合でも、タイミングがずれて注意喚起する場合があります。

前方車両発進通知機能について（Stop&Go）

前方に停止車両を検知した場合に、その停止車両が発進すると通知します。

SD™ カード寿命検知機能について

パイオニア製 microSD カードを装着している場合、一定の保証書き込み回数に達すると、本機からブザー音が「ピーピーピー」と鳴り、microSD カードの交換を推奨する旨のメッセージが画面に表示されます。



メッセージは、microSD カードの交換が完了するまで一定間隔で表示されます*「microSD™ カードの入れかた・取り出しかた」(→ P13)*。

SD カードフォーマット警告機能について

microSD カードの異常を検知すると、本機からブザー音が「ピーピーピー」と鳴り、microSD カードのフォーマットを促すメッセージが画面に表示されます。

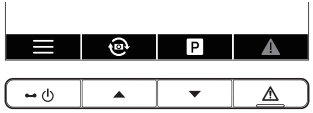
ファンクションボタンの ▲ / ▼ を押して [はい] または [いいえ] を選び、⚠ を押します。

はい： フォーマットをするかどうかを再確認する画面が表示されます。
[はい] を選ぶとフォーマットが開始されます。
[いいえ] を選ぶと、画面を解除し、録画停止状態になります。

いいえ： 画面を解除し、録画停止状態になります。

画面の表示切り替えについて

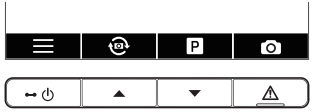
録画中、ファンクションボタンの ▲ を押すたびに以下の映像に切り替わります。



フロントカメラ映像→リアカメラ映像→フロントカメラ映像（メイン）/ リアカメラ映像（サブ）→リアカメラ映像（メイン）/ フロントカメラ映像（サブ）→フロントカメラ映像→…

写真撮影機能について

ファンクションボタンの ⚠ に静止画撮影が割り当てられている場合、連続録画中にファンクションボタンの ⚠ を押すと、写真が撮れます。



・ ファンクションボタンの ⚠ を押すと動作する機能は手動イベント録画と静止画撮影のいずれかを割り当てることができます*「手動イベント録画 / 静止画撮影」(→ P43)*。

撮影したファイルを再生する

撮影した動画ファイルの再生や写真ファイルの表示ができます。

1 ファンクションボタンの ⏻ を押してメインメニューを開きます

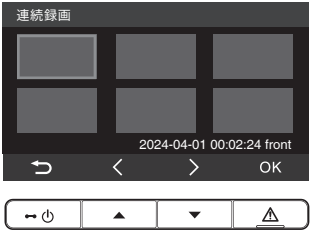
以降表示される各画面において、約 30 秒間何も操作が行われなかった場合は、自動的に録画中画面に戻ります。

2 ファンクションボタンの ▲ / ▼ を押して [ファイル再生] を選び、ファンクションボタンの ⚠ を押します

3 ファンクションボタンの ▲ / ▼ を押してフォルダーを選び、ファンクションボタンの ⚠ を押します

選んだフォルダー内のファイルをサムネイル表示します。

4 ファンクションボタンの ▲ / ▼ を押してファイルを選び、ファンクションボタンの ⚠ を押します



選んだファイルを再生します。

・手順２～４の画面でファンクションボタンの ⏻ を押すと、直前の画面に戻ります。

撮影したファイルのバックアップ

各ファイル保存領域の空き容量が少ない場合は古いファイルから削除されます。残しておきたい大切なファイルがある場合は、次の方法でバックアップすることをお勧めします。

・事前に予備の microSD カードを用意してください。

1 microSD カードを差し換えます

安全な場所に停車し、本機の電源を必ずオフにしてから microSD カードを取り出して、予備の microSD カードと差し換えてください。

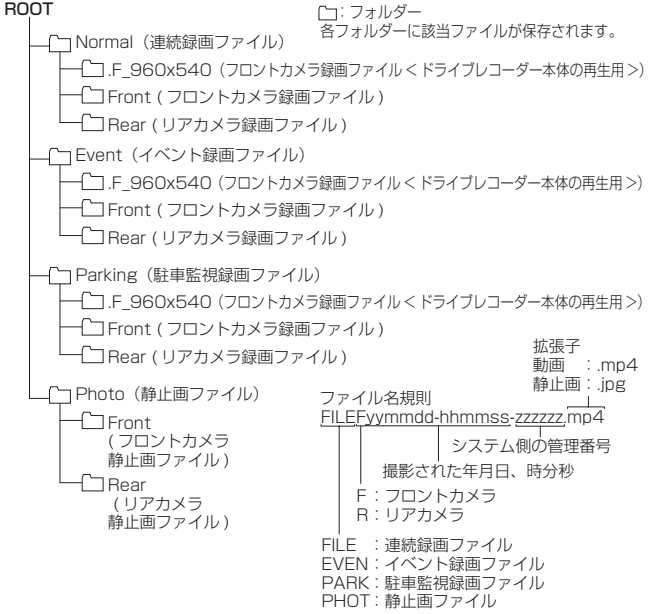
・microSD カード差し換え時は、あらかじめフォーマットしてからお使いください。

2 パソコンにファイルをコピーします

必要に応じて市販の SD カードアダプターを使用し、microSD カードをパソコンへ挿入します。
バックアップしたい録画または写真ファイルをパソコン内の適切な場所へコピーしてください。
録画時間が短くなる原因となるため、録画ファイルの移動や削除は行わないでください。

フォルダーやファイルの構成について

microSD カード内のフォルダーやファイルの構成は下図の通りです。



- 別売の電源ケーブル（駐車監視用）使用時のみ「Parking」フォルダーに駐車監視録画ファイルが保存されます。

ドライブレコーダーの設定

本機に関する設定が行えます。また、設定内容を工場出荷時の状態に戻すことができます。
この他、microSD カードのフォーマットや本機のバージョン情報を確認することもできます。

⚠ ご注意

- **必ず安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけてから操作してください。**
- **MENU 画面表示中および MENU 操作中は、連続録画機能が停止しますのでご注意ください。**

1 ファンクションボタンの ⏻ を押してメインメニューを開きます

以降表示される各画面において、約 30 秒間何も操作が行われなかった場合は、自動的に録画中画面に戻ります。

2 ファンクションボタンの ▲/▼ を押して [録画設定]、[駐車監視設定]、[システム設定] または [ファイル再生] を選び、ファンクションボタンの ⚠ を押します

[システム設定] を選んだ場合を例に説明します。

3 ファンクションボタンの ▲ / ▼ を押して設定分類を選び、ファンクションボタンの ⚠ を押します

4 ファンクションボタンの ▲ / ▼ を押して設定項目を選び、ファンクションボタンの ⚠ を押します

設定が完了し、前画面に戻ります。

・手順 2 ～ 4 の画面でファンクションボタンの ⏻ を押すと、直前の画面に戻ります。

設定できる機能

太字：工場出荷時の設定値です。

設定項目		設定内容	設定値
録画設定	衝撃検知感度（イベント）	振動や衝撃を検知する感度を設定できます。大きい数字にすると感度が高くなります。	[OFF]/[1]/[2]/[3]/**[4]**/[5]/[6]/[7]
	録画ファイル時間	連続録画機能の 1 ファイルあたりの録画時間を設定できます。	**[3分]**/[1分]
	画質（フロント） <VREC-DZ810D Ⅱのみ>	動画撮影時のフロントの画質を設定できます。リアの画質は FHD（1080P）固定です。	**<VREC-DZ810D Ⅱ>** [4K(2160P)]/ **[WQHD(1440P)]**
	画質 <VREC-DZ410D Ⅱのみ>	動画撮影時の画質（フロント／リア共通）を設定できます。	**[FHD(1080P)]**/ [HD(720P)]
	録画フォーマット <VREC-DZ810D Ⅱのみ>	録画の際のエンコーディングのフォーマットを設定します。	**[H.264]**/[H.265]
	露出補正（フロント）	動画撮影時の露出を設定できます。[+] は明るく [-] は暗く調整できます。	[-2.0]/[-1.5]/[-1.0]/[-0.5]/**[0.0]**/[+0.5]/[+1.0]/[+1.5]/[+2.0]
	露出補正（リア）	動画撮影時の露出を設定できます。[+] は明るく [-] は暗く調整できます。	[-2.0]/[-1.5]/[-1.0]/[-0.5]/**[0.0]**/[+0.5]/[+1.0]/[+1.5]/[+2.0]
	リアカメラ左右反転	リアカメラの映像の向きを変えることができます。	**[鏡像]**/[正像]
	手動イベント録画 / 静止画撮影	ファンクションボタンの⚠を押したときに働く機能を設定します。	**[手動イベント録画]**/ [静止画撮影]
駐車監視設定	駐車監視機能	駐車監視機能をオン／オフします。	[ON]/**[OFF]**
	衝撃検知感度（駐車監視）	振動や衝撃を検知する感度を設定できます。大きい数字にすると感度が高くなります。	[1]/[2]/[3]/**[4]**/[5]/[6]/[7]
	通常監視モード時間	駐車監視機能の動作時間を設定できます。オフに設定することもできます。	[OFF]/**[1 時間]**/ [3 時間]/[6 時間]/ [12 時間]
	省電力監視モード	省電力監視モードをオン／オフします。	**[ON]**/[OFF]
	システム インジケーター	駐車監視の録画時にインジケーターを点滅させる / させないを設定できます。	**[ON]**/[OFF]
	駐車監視電圧	車両のバッテリー電圧が設定した電圧以下になったときに自動的に本機の動作を停止（電源をオフ）する設定ができます。	電圧が 12V の場合： [11.6V]/[11.8V]/ [12.0V]/**[12.2V]** 電圧が 24V の場合 [23.2V]/[23.6V]/ [24.0V]/**[24.4V]**

設定項目		設定内容	設定値
システム設定	言語	画面に表示する言語を設定できます。	**[日本語]**/[English]
	タイムゾーン (GMT)	タイムゾーンが設定できます。	[GMT-12:00] ～ [GMT+12:00] **[GMT+9:00]**
	手動日時設定	時刻を手動で設定できます。	—
	速度単位	時速表示の表示方法を設定します。	**[km/h]**/[MPH]
	モニター表示時間	画面を OFF にする時間を設定できます。	[常時 ON]/[3 分]/ **[1 分]**/[10 秒]/ [時刻表示]
	システム音量	操作音および再生音量の設定ができます。オフに設定することもできます。	[OFF]/[1]/**[2]**/[3]
	マイク	動画撮影中に本機周辺の音声も記録する／しないを設定できます。	**[ON]**/[OFF]
	LDWS	走行車線をはみ出しそうな場合に注意喚起するかどうかを設定します。	[ON]/**[OFF]**
	FCWS	前方車両に急接近した場合に注意喚起するかどうかを設定します。	[ON]/**[OFF]**
	Stop & Go	先行車が発進した場合に注意喚起するかどうかを設定します。	[ON]/**[OFF]**
	SD カード フォーマット	microSD カード内のすべてのファイルを削除できます。	—
	工場出荷状態に戻す	設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。	—
	ライセンス情報	本機のライセンス情報を確認できます。	—
	システム情報	本機のファームウェアのバージョン情報を確認できます。	—

録画時間および枚数の目安

下表は、駐車監視機能のオン／オフに応じた各動画の録画時間と写真枚数の目安であり、ご使用の microSD カードや被写体、撮影条件等により変動します。

VREC-DZ810D Ⅱ

64 GBの場合の録画時間および写真枚数の目安

駐車監視機能	録画フォーマット	解像度	連続録画	イベント録画	駐車監視録画	写真枚数
OFF	H.264	2160P	約2時間50分	約42分	—	約400枚
		1440P	約3時間56分	約1時間	—	約400枚
	H.265	2160P	約2時間56分	約44分	—	約400枚
		1440P	約4時間10分	約1時間4分	—	約400枚
ON	H.264	2160P	約2時間6分	約42分	約42分	約400枚
		1440P	約2時間56分	約1時間	約1時間	約400枚
	H.265	2160P	約2時間12分	約44分	約44分	約400枚
		1440P	約3時間6分	約1時間4分	約1時間4分	約400枚

128 GBの場合の録画時間および写真枚数の目安

駐車監視機能	録画フォーマット	解像度	連続録画	イベント録画	駐車監視録画	写真枚数
OFF	H.264	2160P	約5時間41分	約1時間26分	—	約400枚
		1440P	約7時間58分	約2時間1分	—	約400枚
	H.265	2160P	約5時間54分	約1時間30分	—	約400枚
		1440P	約8時間23分	約2時間7分	—	約400枚
ON	H.264	2160P	約4時間15分	約1時間26分	約1時間26分	約400枚
		1440P	約5時間57分	約2時間1分	約2時間1分	約400枚
	H.265	2160P	約4時間24分	約1時間30分	約1時間30分	約400枚
		1440P	約6時間16分	約2時間7分	約2時間7分	約400枚

VREC-DZ410D Ⅱ

32 GBの場合の録画時間および写真枚数の目安

駐車監視機能	解像度	連続録画	イベント録画	駐車監視録画	写真枚数
OFF	1080P	約1時間58分	約31分	—	約400枚
	720P	約2時間12分	約35分	—	約400枚
ON	1080P	約1時間28分	約30分	30分	約400枚
	720P	約1時間38分	約33分	33分	約400枚

128 GBの場合の録画時間および写真枚数の目安

駐車監視機能	解像度	連続録画	イベント録画	駐車監視録画	写真枚数
OFF	1080P	約7時間42分	約1時間57分	—	約400枚
	720P	約8時間33分	約2時間10分	—	約400枚
ON	1080P	約5時間45分	約2時間3分	約2時間3分	約400枚
	720P	約6時間23分	約2時間16分	約2時間16分	約400枚

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、下記内容をご確認ください。

症状	原因	対処
本機の表示や動作がおかしくなった。	本機のマイコンが誤動作を起こしている。	リセットボタンを押してください「*各部の名称*」(→*P12*)。
	microSD カードに何らかの問題が発生している可能性があります。	microSD カードをフォーマットしてください「*SD カードフォーマット*」(→*P44*)。
	本機の温度が上昇するとシステム保護のため、ドライブサポート機能、画面表示が停止し、警告音とともに画面にメッセージが表示される場合があります。本機の温度が下がると、自動的に、ドライブサポート機能、画面表示が復帰します。	「*保護機能について*」(→*P48*)
記録されているはずのファイルが見当たらない。	microSD カード内の保存領域が足らなくなった場合、ファイルは古いものから順に上書き保存されています。	残しておきたい大切なファイルがある場合は、バックアップすることをお勧めします「*撮影したファイルのバックアップ*」(→*P39*)。
	本機の温度が上昇するとシステム保護のため、録画を停止し、警告音とともに画面にメッセージが表示される場合があります。本機の温度が下がると、自動的に録画を再開します。	「*保護機能について*」(→*P48*)
車に乗るときや降りるときに、勝手に駐車監視ファイルが作られる。	車に乗り降りする際の振動が検知されています。	検知するセンサーの感度を調整してください「*衝撃検知感度*」(→*P43*)。
駐車中に録画されたファイルに、異常のない映像が多い。	振動検知の感度が適切では無い可能性があります。	
駐車中に車をぶつけられたのに動画ファイルが作られていない。		
運転中に事故にあったが動画ファイルが作られていない。	振動検知の感度が適切では無い可能性があります。	検知するセンサーの感度を調整してください「*衝撃検知感度*」(→*P43*)。

症状	原因	対処
動画ファイルを再生しても、音声が鳴らない。	音声録音の設定がオフの可能性があります。	音声記録の設定を再確認してください「マイク」*(→ P44)*。
「新しい SD カードに交換してください。」の警告が表示される。 「SD カードのフォーマットが必要です。フォーマットしてください。」の警告が頻繁に発生する。	microSD カードが非対応、劣化または壊れている可能性があります。	新しい microSD カードに交換してください。 対応 microSD カードの規格*「記録媒体」(→ P50)*
液晶画面が一瞬乱れる	録画する画質などの設定によって液晶画面に乱れが発生する場合があります。故障ではありません。 ※ microSD™ カードへ記録される画質への影響はありません。	—

高温状態からの使用上の注意

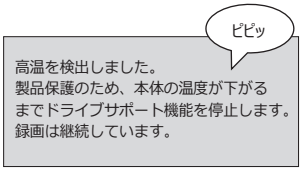
直射日光が当たる環境で駐車した場合、本機は高温になる場合があります。その際、高温保護機能が動作し、一部の機能（モニター表示、ドライブサポート機能、録画機能など）が制限されます。

保護機能について

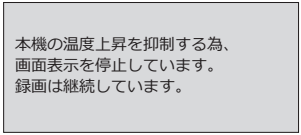
本機の内部温度が高くなると保護機能が働きます。（録画は継続します）

- モニター画面が表示 ON の場合は画面を表示 OFF にします。
- ドライブサポート機能（LDWS/FCWS/Stop & Go）が ON の場合は全て OFF にします。
- システムインジケーター表示は緑の点灯を継続します。

本機からブザー音が「ピピッ」と鳴り、モニター画面に保護機能が働いている旨のメッセージが表示されます。(10 秒間)



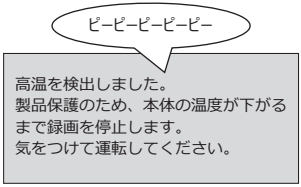
保護機能動作中に本機のいずれかのボタンを押すと、その旨をお知らせするメッセージが画面に表示されます。(5 秒間)



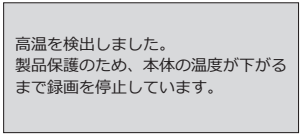
本機の内部温度が下がると保護機能は解除され、モニター表示、ドライブサポート機能が再開されます。

本機の内部温度が更に高くなると、録画動作も停止します。
システムインジケーター表示は赤の点滅に変わります。

本機からブザー音が「ピーピーピーピーピー」と鳴り、モニター画面に録画が停止した旨のメッセージが表示されます。(10 秒間)



録画停止中に本機のいずれかのボタンを押すと、その旨をお知らせするメッセージが画面に表示されます。(5 秒間)



本機の内部温度が下がると録画を再開します。
システムインジケーター表示は緑の点灯に変わります。
さらに下がると保護機能を解除しモニター表示、ドライブサポート機能を再開します。

仕様

型番	VREC-DZ810D Ⅱ / VREC-DZ410D Ⅱ
記録媒体	microSDHC/microSDXC カード class10 (16 GB ～ 128 GB)
撮像素子	**<VREC-DZ810D Ⅱ>** 本体：　1/2.8 型 CMOS センサー 有効画素：約 830 万画素 リアカメラ：　1/2.8 型 CMOS センサー 有効画素：約 200 万画素 **<VREC-DZ410D Ⅱ>** 本体：　1/2.8 型 CMOS センサー 有効画素：約 200 万画素 リアカメラ：　1/2.8 型 CMOS センサー 有効画素：約 200 万画素
記録画角	本体：　水平 115° 垂直 60° 対角 139° リアカメラ：　水平 125° 垂直 65.4° 対角 150.8°
F 値	本体：　F1.8 リアカメラ：　F2.0
録画モード	**<VREC-DZ810D Ⅱ>** 本体：　3 840 × 2 160 P / 2 560 × 1 440 P リアカメラ：　1 920 × 1 080 P **<VREC-DZ410D Ⅱ>** 本体：　1 920 × 1 080 P / 1 280 × 720 P リアカメラ：　1 920 × 1 080 P / 1 280 × 720 P
画質補正技術	**<VREC-DZ810D Ⅱ>** 本体：　WDR 機能 リアカメラ：　HDR 機能 **<VREC-DZ410D Ⅱ>** 本体：　WDR 機能 リアカメラ：　HDR 機能
GPS	搭載
G センサー	3 軸 G センサー イベント録画時：　7 段階レベル設定可能 駐車監視時：　7 段階レベル設定可能
記録方式	連続録画 / イベント録画 / 手動イベント録画 / 駐車監視録画※1 / 写真
録画ファイル構成	1 分 /3 分
ディスプレイ	3.0 インチ液晶
音声録音	オン／オフ可能
フレームレート	27.5 fps

画像圧縮方式	**<VREC-DZ810D Ⅱ>** 動画：MP4（H.264 / H265 + AAC）※2 写真：JPG **<VREC-DZ410D Ⅱ>** 動画：MP4（H.264 + AAC） 写真：JPG
記録映像再生方式	Windows Media Player (Microsoft)、QuickTime Player (Apple) など
電源電圧	DC12 V/24 V（専用電源ケーブル付属）
消費電力	**<VREC-DZ810D Ⅱ>** 6.0 W **<VREC-DZ410D Ⅱ>** 5.0 W
動作温度	- 10 ℃ ～ + 60 ℃※3
外形寸法	本体：　89 mm × 65.7 mm × 51.2 mm（幅×高さ×奥行） リアカメラ：　50 mm × 37.5 mm × 26.4 mm（幅×高さ×奥行）（ブラケット含まず）
本体質量	本体：　172 g（ブラケット含む） リアカメラ：　28 g（ブラケット含む）
取付推奨角度	本体：　20°～85° リアカメラ：　20°～90°

※1：別売の電源ケーブル（駐車監視用）使用時のみ。
※2：MP4（H .265）選択の場合は、MP4（H .265）対応ソフトで再生できます。
Windows Media Player で再生する場合は、HEVC コーデックを入れる必要があります。
※3：お車のご利用状態により本機の温度が上昇するとシステム保護のために、本機の録画機能、ドライブサポート機能、画面表示機能が停止し、画面にメッセージが表示される場合があります。温度が下がると、自動的に録画を再開します。

GPS について

- GPS 衛星（人工衛星）から位置測定用の電波を受信して、現在地を測位するシステムが GPS（Global Positioning System：グローバルポジショニングシステム）です。
- GPS 衛星信号は、固体物質（ガラスを除く）を通過することができません。次のような場所にいるときは、GPS 衛星の電波がさえぎられて受信できないことがあります。
トンネルの中やビルの駐車場、2 層構造の高速道路の下、高層ビルの群集地帯、密集した樹木の間

リサイクルご協力のお願い

本品は小型家電リサイクル法の対象です。一般ごみとしての廃棄をしないでください。
使用済の製品はお住いの自治体の指示に従って廃棄してください。
使用済製品に含まれる貴重な資源の有効活用にご協力ください。

商標・著作権など

- SD、microSD、microSDHC、microSDXC ロゴは SD-3C LLC の商標です。

- Apple および QuickTime は米国、他の国々および地域で登録された Apple Inc. の商標です。
- Microsoft、Windows Media は、マイクロソフト グループ企業の商標です。
- 本製品は、米国 Microsoft Corporation が所有する技術を使用しています。また、米国 Microsoft Licensing Inc. の許可を得ずに使用または頒布できません。
- STARVIS およびそのロゴは、ソニーグループ会社またはその関連会社の登録商標または商標です。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめの上、ご購入の際に販売店より受け取ってください。保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より３年間です。

修理について

本機は持ち込み商品のため出張修理は承っておりません。引き取り修理サービスをご利用ください（お車から取り外していただいた状態での引き取りとなります。また送料はお客様ご負担となります）。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付窓口にご連絡ください。連絡先については、裏表紙の「修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付窓口にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。尚、生産終了により補修用性能部品の調達や修理後の性能保証などの事情から修理できない場合があります。あらかじめご了承ください。

車からの脱着（お取り外し・お取り付け）について

弊社修理拠点へのお持ち込みは、製品をお車から取り外した状態で、承ります。なお、修理･点検時における本製品のお車からの脱着費用の負担、及び脱着作業は承っておりません（保証期間内含む）。販売店、または取り付け店にご相談ください。

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>
「0120」で始まる電話番号は、携帯電話・一部のIP電話などからは、ご使用になれません。
携帯電話からは、IP電話をご利用下さい。(通話料がかかります)
正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただくことがございますので発信者番号の通知にご協力いただきますようお願いいたします。

商品についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします
パイオニア商品の取り付け・組み合わせなどについては、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

●商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター

■お客様サポートサイト
https://jpn.pioneer/ja/support/

■商品についてのよくあるお問い合わせ(FAQ)
https://faq.jpn.pioneer/s/

■電話　《カーナビゲーション、カーAV、ドライブレコーダー、その他システムアップの商品》
※受付時間はお客様サポートサイトでご確認ください
【固定電話から】**0120-944-111**(無料)　【携帯電話から】**050-3097-9332**(IP電話・有料)
※カーナビゲーションの訪問宅電話番号検索機能に関する個人情報の削除などはこちらの窓口で承っております

■ファックス　**0120-105-680**(無料)

修理についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします
修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『**故障かな?と思ったら**』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。
それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理受付窓口

■修理受付サイト
受付時間、よくあるお問い合わせなどはホームページをご確認ください
https://jpn.pioneer/ja/support/purpose/repair/

■電話　【固定電話から】**0120-5-81028**(無料)　【携帯電話から】**050-3097-9104**(IP電話・有料)

■ファックス　**0120-5-81029**(無料)

令和7年5月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.14

パイオニア株式会社
〒113-0021
東京都文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコート

© パイオニア株式会社 2026
< KWSZ26C > < CYR1403-A >